

皆さんお元気ですか？

今日は、少し頭を柔らかくする運動です。

なぞかけです。

「Aとかけまして Bと解きます そのところはC。」という形で何も関係もないAとBとを示した後、共通するCという言葉でしめくくります。2つの意味を持つ言葉を用いた「言葉遊び」です。

例えば

○おにぎりとかけてまして、美術の時間と解きます。 その心は、「のり（海苔・糊）」が必要です。

○結婚とかけてまして、ダイヤモンドと解きます。 その心は、「強いいし（意志・石）」が必要です。

○梅雨とかけてまして、注文した荷物と解きます。 その心は、「あける（明け・開け）のが楽しみ」です。

そして、今日のお題は、「学校」です。

○学校の約束事とかけてまして、猛スピードの車と解きます。 その心は、「こうそく(校則・高速)」です。

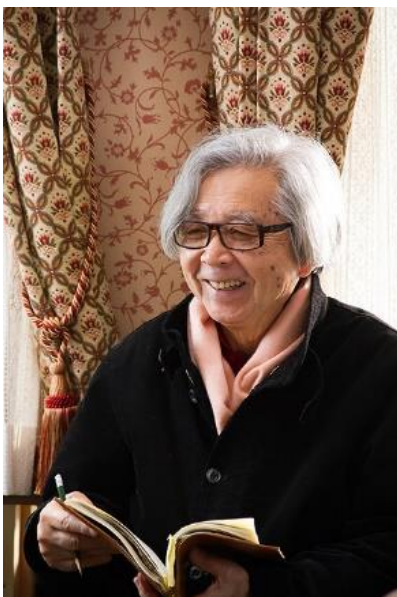
○学校の先生とかけてまして、羽子板の絵が綺麗と解きます。その心は、「おしえ(教え・押絵)が大事」です。

最後に、

○学校とかけてまして、映画館と解きます。 その心は、どちらも夢をあたえます。

それでは、「学校A」と「映画館B」との化学反応で、今日は『学校』という映画を紹介します。

脚本・撮影は、山田洋次監督です。渥美清の『男はつらいよ』や『幸福の黄色いハンカチ』などの映画監督です。



山田 洋次 やまだ ようじ 88歳

(1931年9月13日 - )は、日本の映画監督、脚本家、演出家。大阪府豊中市出身。東京大学法学部卒業。川島雄三、野村芳太郎の助監督を経て1961年に『二階の他人』でデビュー。1969年『男はつらいよ』を発表、以来50作となる国民的シリーズとなる。作品は、人情劇を描く。



『学校』1993年から2000年までに全4作が制作されました。

- I 幅広い年代の生徒が集まる夜間中学校を舞台に、挫折や苦境から立ちあがる人々を描いた作品。
- II 高等養護学校を舞台に、重い障害を持つ生徒と軽い障害を持つ生徒の交流・葛藤、就職問題等を入学から卒業までの、3年間の出来事を描いた作品。
- III 自閉症の息子を持つ女性を中心に、人生の再出発をかけて集った人々のリストラ・再就職問題を職業訓練校(ビル設備・ビルメンテナンス半年コース、東京都立)を舞台に、心の交流を描いた作品。
- IV 舞台は学校ではなく、全国各地でのロケをメインにしている初めての作品です。学校に行かない少年の横浜から鹿児島県の屋久島までのヒッチハイクの旅を描いたロードムービーです。(スタンド・バイ・ミーの日本版です。)

どの作品も素晴らしいです。その中でも、今の皆さんの年代で、特に観ておいてほしいのは、IとIVです。

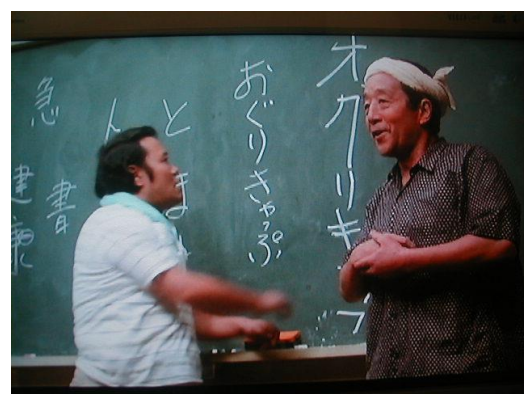
ぜひ、本編を観てもらいたいので、少しだけ説明します。



岩波文庫  
1993年発行



中央・黒岩先生、右上・田島先生(竹下景子)  
奈良・若草山 修学旅行での集合写真



イノさんへの「カタカナ」の授業  
競馬の話は、イノさんが先生。



夜間中学校で長年教師を務める黒岩先生(西田敏行)を生徒たちは愛情を込めて「黒ちゃん」と呼びます。厚い信頼を寄せられている先生と生徒たちとのエピソードを織り交ぜながら、物語は進行していきます。卒業式までには戻って来ると入院したイノ(猪田)さん(田中邦衛)の急死をめぐり、生徒たちは、みんなで考えます。本当の「幸福」とは何かを問い続けます。みんなで知恵を絞り、汗をかく本当に素晴らしい授業です。みんなで考えを出し合えることこそ、幸せの時間です。





IVは、屋久島の縄文杉を見るために東京に住む中学3年生・川島大介（金井勇太）は、ある日家族に行き先を告げないままヒッチハイク・家出します。その道中でいろいろな人たちと出会い、そして、別れをします。東京に帰って来た時、町が小さく見え、その時もらった詩を胸に学校への冒険の旅が始まります。

大林 宜彦監督や黒澤 明監督、黒澤作品に影響を受けたスピルバーグ監督やジョージルーカス監督など、まだまだ、素晴らしい作品がたくさんあります。またの機会に紹介します。

以下も山田 洋次監督作品です。



○映画監督とかけまして、美容院・床屋さんと解きます。 その心は、「カットが大事」です。